

問 心豊かな子供の成長のために、本を通して赤ちゃんと楽しい一時が保てるよう応援するブックスタート事業が地方自治体の間で大きく広がっている。赤ちゃんの身体の成長はミルクが必要のように、赤ちゃんの言葉と心を育むためには、「だっこ」の優しさの中で語りかけてもらう時間が必要である。また、絵本を介して赤ちゃんに保護者の心が通い合う、暖かい時間を持てるメッセージを伝えることも大切である。子育て支援活動の一環として、ブックスタート事業も重要と考え、実施状況や推進状況について伺う。

教育長 本町では、平成15年度から、ブックスタート事業をマイファーストブックサポート事業という名称で実施している。

乳児検診の際に単に絵本を手渡すだけではなく、図書館司書による本の紹介、あるいは読み聞かせなどの話をしてから絵本セットを1カ月間貸し出しをし、図



ブックスタート事業の実施状況は

中野敏勝議員

カ月乳児検診の際に115名、平成16年度は、11月末現在、12回142名で、最終的には、212名ぐらいになると予測している。

先に実施した1歳6カ月検診時のアンケート調査では、絵本を読むきっかけとなった時期は本事業を実施してからという保護者が多く、また、図書館に足を運んで絵本などに触れ合う機会が増えたとの結果が出ており、絵本の貸し出し冊数が多くなってきた。

今、子供の活字離れが叫ばれているが、こういった機会を通していろいろな形の中で本に慣れ親しめるよう、ボランティアの人たちとも連携をとりながら、本事業推進に向け、一層努力していきたい。

また、町内の主要公共施設に、返却・貸し出し自由の図書コーナーを開設しているが、新たに絵本を含めた児童書を置くなどして、親子ともに身近に本がある環境、すなわち読書のまち構想幕別実現に向けて、積極的に取り組んでいきたい。

まちづくりの第一歩になる 子供議会の開催を

問 町の未来を担う子供達の夢や希望、意見を町政に反映させていくことは幕別町の将来にとって大切なことであり、大人が子供に感心と関わりを持ち、幕別町を作り上げていくことの必要性を考える。

生徒が日頃、日常生活の中で感じていること、また地域の中で考えさせられたこと、要望、意見として発

表していくことが、これからのまちづくりへの第一歩にもなると思う。議会の仕組みを学び、議会の様子等も学べる子供議会の開催を考え、次のことを伺う。

① 子供議会は過去にも一度行っているが、総合計画にどう反映されたのか。

② 生徒の海外研修やホームステイ等で経験したことで、姉妹交流の場で体験学習として学んだことを住民や他の生徒に伝える機会が必要では。

町長 平成11年に子供議会を開催し、町内13の小中学校から、小学5年生と中学2年生を対象に、それぞれ2名ずつ、都合26名の子供たちに出席を促していた。き、まちづくりに対する要望や意見を質問・答弁という議会の一般質問の形式に則して、議事を進めた。

① 子供議会では、ごみなどの環境問題、学校施設の整備や給食の充実、通学路の交通安全施設の整備、公園の整備など、子供たちに身近な質問や要望が多く出され、第4期総合計画の施策に反映されたものと思っ

については、昨年から年1回教育委員会で開催されている中学生によるジュニア教育委員会等を参考にし、学校・教育委員会とも相談をしていく中で考えていきたい。

② 海外研修や国内研修等で体験したことや学んだことは、各学校での報告会、あるいは町の広報誌等を通じて、町民の皆さんに周知をしている。



平成11年に行われた子供議会

今後の開催に